

感情の暴走

キじるのは、若いひとたちだけではない。むしろ、高齢者のほうがキしやすい。まして、このコロナ禍だ。爆発してもおかしくない。

75歳のYさん。高血圧と脳梗塞の患者さんだ。きょうは、やたら血圧が高い。診察室では、何食わぬ顔だ。が、さっきスタッフに、「診察が遅いのは、なんでじゃ？」と大声を出していた。

すべてに怒るYさんだが、前頭側頭型やアルツハイマー型の認知症を患っているわけではない。だが、頭部MRI（磁気共鳴画像）で、前頭葉が年齢相応に萎縮していることが分かる。

前頭葉が萎縮すると、感情をコントロールしにくくなる。怒りの感情を抑えにくくなるのだ。また、性格の先鋭化といって、もともと短気なひとはキしやすくなる。

もちろん、加齢による脳の変化だけがキじる原因ではない。怒りという感情は、あくまで自分が生み出す二次感情だ。その大

本に不安がある。不安でいっぱいになると、怒りが生まれやすくなるという。

実は、この頃の高齢者は、その不安で押し潰されそうになっている。コロナのせいもある。

「薬をのんでいるけど、ワクチンは打てるのか？副反応は？」などと、情報不足に狼狽える患者さん。「申し込みは、スマホか？どうしよう」と途方に暮れるひと。

ーTが急に普及した世の中は、使い方に慣れない高齢者をより生きにくくしている。Yさんのように「ワクチン接種も不公平だ。自分のような年寄りには、来年に回されるのか」と、社会から見捨てられるのではという不安を隠さないひともある。

気持ちは、よく分かる。高齢者で医者の方ッシーだって、ワクチンはまだなのだ。でも、八つ当たりはしない。みっともないし、益がない。「あ、老人だ。脳が萎縮しているからだ」と、バカにされるだけ損ではないか。

（石黒修三 しいしげるクリニック・脳神経外科専門医…5/3 北國新聞掲載）